

# 男性更年期症状のリスク要因解明 認知度とセルフモニタリングの向上



丹治 史也

准教授 博士（医学）

Fumiya Tanji

大学院医学系研究科 保健学専攻 看護学領域 臨床看護学分野

## 研究キーワード

男性更年期障害、就労世代、メンタルヘルス、自殺、予防、コホート研究

## 研究概要

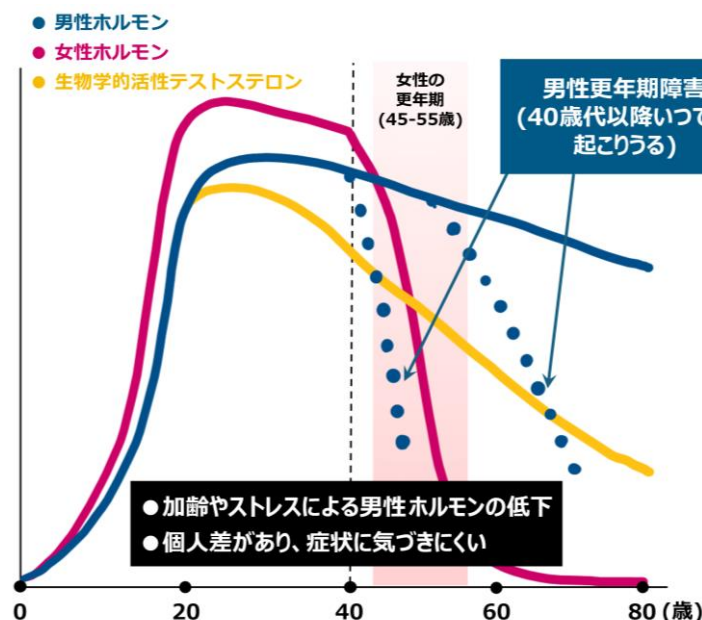
男性にも更年期障害があることは徐々に知られてきていますが、その認知度は10%台とされています。症状には男性ホルモンの低下やバランスの乱れに加え、ストレスや生活習慣が影響すると言われていますが、エビデンスは不十分です。

現在、インターネット調査により、全国の20～60代の一般男性1,500名を対象に、男性更年期症状のリスク要因を探索するコホート研究を立ち上げています。リスク要因の解明により、看護におけるアセスメント指標、および患者のセルフモニタリング指標の開発を目指しています。

男性の更年期障害は、抑うつ・自殺、性功能・認知機能低下、生活習慣病、骨粗鬆症等と関連すると報告されており、予防や早期治療が必要です。

更年期障害と仕事・家庭での役割・パフォーマンスが相互に影響し合うと考えられます。

### 【加齢と性ホルモン分泌の変化】



## 産業界へのアピールポイント

企業と連携して更年期障害対策を実施し、就労男性の健康増進・仕事パフォーマンス向上を図りたいと考えています。